

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-274261

(43)公開日 平成6年(1994)9月30日

(51)Int.Cl.⁵

G 0 6 F 3/02

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

3 7 0 Z 7165-5B

3 1 0 G 7165-5B

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 3 頁)

(21)出願番号 特願平5-64027

(22)出願日 平成5年(1993)3月23日

(71)出願人 000005821

松下電器産業株式会社

大阪府門真市大字門真1006番地

(72)発明者 大曲 耕司

大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器

産業株式会社内

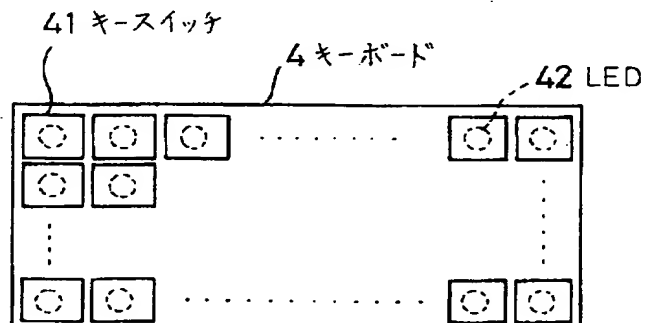
(74)代理人 弁理士 武田 元敏

(54)【発明の名称】 情報入力装置

(57)【要約】

【目的】 キーボードからのテキスト文字列入力で、コマンド入力を行う情報入力装置におけるコマンド文字列の誤入力を防ぐ。

【構成】 キーボード(KB)4のキースイッチ41にLED42を内蔵し、コマンド文字列の最初の文字が入力されたとき、2文字目に入力可能な文字を自動的に判断し、入力可能な文字のキースイッチのみをLEDを点灯させる。3文字目以降も同様の動作を繰り返す。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 キーボードからのテキスト文字列入力で、コマンド入力を行う情報入力装置において、すべてのキースイッチにLEDを内蔵したキーボードと、コマンド文字列の最初の各文字が入力されたとき、2文字目以降に入力可能な文字を自動的に判断するコマンド文字列判断部を備えたCPUとを有し、コマンド文字列の1文字目が入力されたとき、2文字目に入力可能な文字を前記コマンド文字列判断部にて判断し、入力可能な文字のキースイッチのLEDだけを点灯させ、3文字目以降も同様の動作を繰り返すことにより、オペレータがLEDの点灯状況を見ながらコマンド入力を行うことができるようにしたことを特徴とする情報入力装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、キーボードからのテキスト文字列入力で、コマンド入力を行う情報入力装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 キーボードからのテキスト文字列入力で、コマンド入力を行う情報入力装置において、従来はコマンド文字列に誤った入力をしてしまった場合、すべてのコマンド文字列を入力し、リターンキーを押した後にエラーメッセージが出され、オペレータはこの時点で初めて自分が誤入力をしてしまったことを知ることができた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、従来の情報入力装置では、コマンド文字列に誤入力をした場合、再び最初からすべての文字列を再入力をする必要があり、入力に手間がかかった。特に、初心者にとっては大変使いづらいという問題点を有していた。

【0004】 本発明はこのような問題点を解決し、コマンド文字列の誤入力を防ぐことを目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】 本発明は、前記問題点を解決するために、キーボードのキースイッチすべてにLEDを内蔵し、コマンド文字列の最初の文字が入力されたとき、2文字目以降に入力可能な文字を判断するコマンド文字列判断部を有し、入力可能な文字のキースイッチのLEDのみを点灯させる。

【0006】

【作用】 本発明によれば、オペレータはコマンド文字列の入力を行う際、LEDの点灯状況を見ながら入力することができるので、誤入力を防ぎ、かつ操作がしやすい。

【0007】

【実施例】 以下、本発明の一実施例における情報入力装置について図面を参照しながら説明する。図1は本発明の一実施例におけるハードウェア構成図である。

【0008】 図1において、1はCPU(中央演算処理装置)であり、プログラムメモリ(ROM)2に記憶されたプログラムに従って各種装置を制御するが、本実施例においては、コマンド文字列の最初の文字が入力されたとき、2文字目以降に入力可能な文字を判断するコマンド文字列判断手段を有する。3は装置がサポートするコマンド文字列の一覧等を格納するためのメモリであり、RAMで構成されている。4はキースイッチすべてにLEDを内蔵したキーボード(KB)、5はCRTやLCD等の表示装置であり、これら各部はバス6で接続され、情報と信号が授受される。

【0009】 図2は図1のキーボード(KB)4のキースイッチ41のすべてにLED42を内蔵した概略図である。

【0010】 以下に、本発明の動作をディスク・オペレーティング・システム(DOS)のコマンドの場合で説明する。

【0011】 DOSのコマンドは基本コマンドが数十種類あり、その他にユーザが登録できる機能を備えている。まず、ユーザが登録しているコマンドも含めてすべてのコマンド文字列をメモリ(RAM)3の中に格納しておく。オペレータがキーボード(KB)4によりコマンド文字列の最初の文字を入力すると、CPU1は入力された文字で始まるコマンド文字列をメモリ(RAM)3の中のコマンド文字列一覧より検索し、2文字目に入力可能な文字を判断し、入力可能な文字のキースイッチ41のLED42を点灯させる。

【0012】 次に、オペレータがLED42の点灯状況を見ながら2文字目を入力すると、前記と同じように3文字目に入力可能な文字をCPU1は判断し、入力可能な文字のキースイッチのLEDを点灯させる。以下、同じような動作を繰り返す。例えばDOSの基本コマンドの中には、“D”で始まるコマンドは“DATE,” “DEL”, “DIR”, “DISKCOPY”の4つがある。オペレータが最初の文字“D”を入力すると、“A”, “E”, “I”の3つのキースイッチのLEDが点灯する。オペレータが2文字目に“I”を入力すると、“R”, “S”の2つのキースイッチのLEDが点灯する。以上のように、オペレータはLEDの点灯状況を見ながら、コマンド文字列を素早く入力することができる。

【0013】

【発明の効果】 以上説明したように本発明の情報入力装置は、オペレータがコマンド文字列を入力する際、LEDの点灯状況を見ながら入力することが可能となり、コマンド文字列の誤入力を防ぐことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の一実施例におけるハードウェア構成図である。

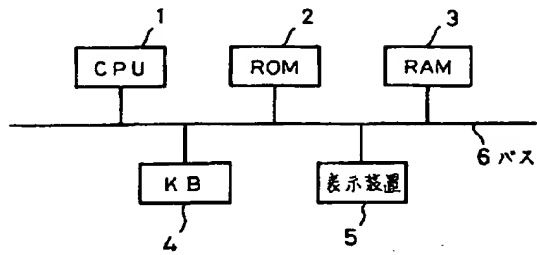
【図2】 図1のキーボードの概略図である。

【符号の説明】

1…CPU(中央演算処理装置)、 2…プログラムメモリ(ROM)、 3…メモリ(RAM)、 4…キーボード

(KB)、 5…CRT等の表示装置、 6…バス、 41…キースイッチ、 42…LED。

【図1】



【図2】

